

韓国薬学研修報告 ～漢陽大学、国際交流について～

長谷川 博之

薬学部4年 09A103

2013年9月8日～11日の4日間の海外研修で大学病院の薬剤部や調剤薬局の見学、韓方（韓国の生薬）市場の見学、漢陽大学薬学部との国際交流をした。

はじめに

漢陽大学校はソウルと安山にキャンパスを持つ私立大学である。前身である東亜工科学院が1939年に設立され、その後1959年に総合大学である現在の漢陽大学校となった。工学、人文、社会科学や自然科学、医学、薬学、芸術、音楽、体育など数多い学部や学科があり、もともと工科学院として設立されたので、工学部が有名である。毎年4500人ももの学部卒業生を輩出し、韓国の中でも大きい規模の大学である。卒業生には、芸能人、スポーツ選手や有名企業の会長など多数の著名人がいる。またソウルと九里に附属病院を持っている。漢陽大学校の薬学部は安山（ERICAキャンパス）にあり、地下鉄安山駅で下車し、駅からスクールバスに乗り10分ほどで漢陽大学ERICAキャンパスに着いた。ERICAキャンパスは広大なキャンパスであり芝や樹木も多く、キャンパス内には訪問者が宿泊できる11階建てのゲストハウスも備えている。漢陽大学薬学部は2011年に設立され、6階建ての建物である。



漢陽大学 薬学部キャンパス

韓国のカリキュラムは日本と大きく違う。韓国では、1～2年生は教養科目を受け、3年生から各分野の専門科目の授業が開始する。よって薬学部の学生と言われるのは3年生からである。韓国では薬学部が6年制課程に移行してからまだ、3年しか経っておらず6年制課程の卒業生は来年に初めて輩出される。

私たちは3日目に漢陽大学薬学部を訪問した。薬学部のキャンパスに入っただけで、漢陽大学の薬学部の人たちが温かく迎え入れてくれた。3、4、5年生の集まる教室内で私たちは1人ずつ韓国語で自己紹介をし、本学6年中村真未氏が英語で本学薬学部の紹介を行った。



愛知学院大学薬学部の紹介

その後、4年生の薬理学の授業を韓国語で受講し、授業後の昼休みの時間に4年生の人たちに声をかけていただき、短い時間であったが会話を楽しんだ。午後からは学校を出て、調剤薬局を見学した。その後、薬学部のキャンパス内を巡り部屋ごとに案内をしていただいた。薬学部のキャンパスは大きい吹き抜けや窓がたくさんあり、通路の幅も広かったので広く感じた。教室は1学年の生徒数が30人程度なので中学校の教室のように教員と学生の距離も近くクラス全員が和やかな雰囲気であった。教室以外には1学年分の人数が入る実験室、コンピューター室、薬学生全員が入る講堂も設備されていた。また、地下には学生1人1人のロッカーがあり、サークルごと

の部室もあった。研究室は教室とは別の階にあり、研究分野が近い研究室を同じ階に配置することで実験機具の貸し合いを円滑に行えるようにしていた。漢陽大学薬学部には15人の教員が勤めており、研究室によっては教授がいないところも見られた。薬学部のキャンパスの隣には放射線を扱う棟があり無菌室やラット、マウスを扱う実験室もあった。ラットとマウスの飼育室、実験室はラットとマウスに分けられ、かなりの数を飼育できる。



漢陽大学 薬学部キャンパス

夕方に、大学院の授業を受講した。臨床の事例についてPBLを行う授業であり、すべて英語であった。院生の中には南アジア出身の人もいた。

大学院の授業の後、漢陽大学の教員、学生たちと一緒に夕食を食べた。私たち日本の学生5人に対して13人もの学生が集まってくれた。なかなか英語が流暢に話せない私たちに理解しやすいように何度も言葉を易しくしていただきゆっくりであったが会話をすることができた。中には日本語が少し話せる学生も居たので、言葉がわからないときは助けていただくこともあった。初めてお互いに名前、年齢、学年の自己紹介をした。今回話した男子学生の年齢がほぼ20代半ばであった。その理由を聞くと、韓国の「兵役」という制度によるものだと言っていた。韓国人男性は19～29歳の間に2年間兵役に就かなければならない。大学を休学し軍隊に入り、その後復学する人が多いと聞いた。また韓国は数え年であり生まれた年を1歳とするので、現役大学生の入学時の年齢は19歳である。そのため日本の大学生と韓国の大学生で同じ学年であっても韓国の学生のほうが歳上の人が多いことがわかった。学校に関係することでは卒業後の進路やサークル活動について話をした。その他、日本で流行っているもの、日本で有名な韓流ドラマ、アーティストについても話した。学生の中には来日したことがある人もいた。短い時間であったがたくさん話し、交流を深



漢陽大学薬学部の学生と記念撮影

めあえたと感じた。

感想

今回の海外研修で韓国の薬学教育を学び、日本の薬学教育との共通点、相違点を知ることができました。また薬局、病院の見学では韓国特有のシステムがいくつかあり、システムごとに利点や欠点を考えました。そのシステムを日本の薬局、病院に導入した場合のような問題点が現れるかをそれぞれの国の背景も取り入れながら意見を出し合うことで、より理解を深めることができたと思います。薬学に関することばかりではなく、韓国の文化、風潮を知ることができました。今回の海外研修の中で韓国の学生と交流をしたことが印象に残っています。海外の同じ学部の学生と交流する機会はなかなか無いと思っていたので新鮮に感じました。日本では当たり前と思っていたことが韓国では違っていたり、また日本にはない韓国のマナーがあったりと日本人と韓国人の考え方の違いも知ることが出来ました。たった4日間でしたが色々なものを見て考えさせられることで、考えの幅が広がり価値観も少し変わり、とても良い経験になりました。これからも色々なことに挑戦していき、もっとたくさんこのことを学びたいと思いました。今回貴重な機会を与えてくださった愛知学院大学薬学部国際交流委員会、漢陽大学薬学大学の皆様に厚く御礼申し上げます。